

現代の

ことば

やすなり
安成

てつぞう
哲三



10年ぶりで北緯62度の東シベリアの町ヤクーツクを訪問した。私たちの研究所と現地の研究所が合同で、地球温暖化が世界の最寒冷地であるこの地域の気候や環境、そして人々の生活にどう影響しつつあるかを討議する国際会議を開催したからだ。約20年近く、日本・ロシア・ヨーロッパの研究グループは協力してこの地域の環境変化の観測と研究を継続しており、その多くの成果が報告された。

温暖化の影響は、予想外のかたちで進行しつつあることが分かってきた。この地域の過去数十年間の気温上昇は世界でも最も著しい。気温上昇に伴い、この地域の厚い永久凍土の融解も進んでいる。IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の新しい報告でも、温室効果ガス増加に伴い、シベリアを含む極域の温暖化や凍土融解の進行が指摘されている。

未来の地球を考える

融解が洪水頻度を増加させ、寒帯林の枯死が一部に始まっていることが分かってきた。もしこの傾向がさらに拡大すれば、枯死のため森林は衰退し、大気へのCO₂放出も増加し温暖化は加速される可能性がある。地球の自然は本当に複雑であり、予測は難しい。

自然のしくみはまだまだ分かっていないが、人類の活動によって地球温暖化が進行しつつあることはかなり確実となりつつある。私たちは、日々の激しい天候変動に感嘆され、じわじわとした変化を見通しがちである。人工的に自然が大きくコントロールされている都市の生活ではさらに感じにくい。それでも「これまで経験したことがない」異常気象が増加し、夏も冬も次第に暖くなり、季節が何

となく狂ってきていることを多くの人たちはすでに感じつつある。

自然の恵みを直接享受する農業や漁業への影響はより深刻である。自然災害の頻度や程度も変わりつつある。シベリアでも、北極海に流れるレナ川では温暖化で春の解氷洪水の激化により人家への浸水や家畜の溺死などの被害が増加している。温暖化に伴う陸域生態系の変化が、牛馬やトナカイの飼育を営むヤクート族の生活に影響することも懸念されている。

人類の活動による地球環境変化は、海洋の役割などにより時間遅れで現れるか、ある限度を超えた時、突然の大変化として現れる。その予測は難しいが、いずれにせよ、現在の人類活動の「つけ」の大部分は、50年先100年先に生きる私たちの孫やひ孫、さらにその先の世代で現れる。かれらへの「つけ」をできるだけ減らしておく義務が現在の地球に生きる私たちにはあろう。「持続可能な地球」という考えは、まさにそこからきているのである。

「未来の地球」(Future Earth)という大きな国際計画が世界の研究者組織や国連機関などの連携で動き出した。地球規模の環境変化にどう対処し、地球の生命と人類の持続可能性をどう実現できるか、研究者だけでなく、人類全体で考えようという計画である。大変な課題であるが、人類はその叡智をかけて取り組むべき時期にきている。

(総合地球環境学研究所長・地球環境学)